

日本産業衛生学会九州地方会ニュース

産衛九州

発行所 日本産業衛生学会九州地方会
〒870-8555 北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1
産業医科大学 医学部 衛生学講座
TEL (093) 691-7429
FAX (093) 691-9341

発行責任者：地方会長 川本俊弘

(題字：倉恒匡徳筆)

巻頭言

大学の安全衛生管理

市場正良

(佐賀大学 医学部 社会医学)



私は、環境医学、産業医学を専門とし学生の教育や産業保健活動にかかわっている。しかし、足元の自分達の大学の安全衛生管理は十分にできていますと胸を張って言えるであろうか。他大学の状況は定かではないが、少なくとも我が大学は十分でない。よく言われるのが、大学は独立した研究室が

それぞれ違う考え方で研究や教育を進めており、上からの指揮命令系統がはっきりしていないと。このことが、系統的な安全衛生管理がうまくいかない原因だと。いわゆる中小企業による工業団地のようなものだとも言われる。

大学の安全衛生管理はどうあるべきであろうか。大学での研究を考えると、例えば、有機溶剤使用に関しては、多品種、少量の非常作業であり、定常作業を前提としている安衛法には、なじまないとの指摘もある。だから大学向けの法律を作ろうとも。しかし、視点を変えてみれば、大学は教育機関である。特に理工系は、企業に技術者や管理監督者としての人材を輩出する組織でもある。その意味では、学生は企業で行われている化学物質管理などの安全衛生管理を知っておくべきである。時代をリードする大学であれば、安全衛生教育として、安衛法で謳われている最低基準を上回る管理とは何かを、学んでおくべきであろう。そして日本の取り組みは、海外からの留学生にも伝えなければならないであろう。

日本産業衛生学会の研究会の1つとして「大学・研究機関における安全衛生管理研究会」が最近設立された。各大学や研究機関での安全衛生管理の問題点や情報を交換しようという趣旨である。これまでの研究会では、他大学の先進的な取り組みを学ぶことができた。

どうして、今日まで大学ではこのようなことが考えられ

てこなかったのだろうか。作業主任者の講習に関わって気が付いたことがある。有機則や特化則では対象物質の使用に当たり、管理監督者として作業主任者の選任が義務付けられている。しかし、研究業務は除外されている。だから、大学ではこれまで管理することに気がつかなかったのだ。なぜ研究は除外か。研究職は化学物質に対する基礎知識は持っているはずだという前提かもしれない。しかし、実際、研究職の皆が、安衛法や工学的な管理あるいは医学的な知識を持っているわけではない。そこで佐賀大では、昨年主に理工系学部のスタッフを対象に学内で有機溶剤作業主任者講習会を企画してみた。労働基準協会の出張講習である。試験があるということで、皆さん緊張の2日であったと思うが、約30名の参加者は全員合格した。当然か。終わってみての感想では、各自断片的な知識は持っていたが、系統的に学ぶよい機会であったとの意見が聞かれた。また、この講習では特別に作業環境の自主管理のために検知管による有機溶剤測定実習も組み込んで頂いた。大学のような非常作業における作業環境管理は、外部専門家による正規の作業環境測定よりも、検知管でもいいから随時な自主的な取り組みが有用だと考えている。

屋内の管理と同じように屋外への環境管理も重要である。今夏は、どこの大学も企業も省電力が重要課題である。大学はここでも環境教育の義務がある。今、九州内の原発は稼働しておらず、放射能の危険性は広く問題視されている。しかし、環境問題は何が正しいか難しい。2年前まではCO₂を増やすな、石油を燃やすな、ということが重要であったはずであるが、今CO₂のことは誰も言わない。確かに放射能汚染もたいへん重要ではあるが、地球温暖化も世界規模で後世に続く課題であったはずだ。さて、私の大学も購入電力を減らすために自家発電は今夏はフル稼働だ。CO₂は増えるのだ。

ごあいさつ

中災防の顕功賞(平成23年)を受賞して

松下 敏夫
(鹿児島大学 名誉教授)



わが国の産業界で自主的安全運動が創始されて100年という歴史的に記念すべき2011年に開催された第70回全国産業安全衛生大会の席で、わが国の産業安全衛生領域で誠に名誉な中央災害防止協会の「顕功賞」の表彰をいただき、何とも恐縮しました。

恵まれた素晴らしい人々との出会い

「人生とは出会いである」と評されますが、私がこの日があったのは、多くの素晴らしい先生方や内外の様々な方々との恵まれた出会いがあったらこそと思います。

因みに、私は名古屋大学の学生サークル活動の経験から、予防医学、とりわけ労働衛生に関心を持ち、卒業後、日本産業衛生学会第3代理事長を務められた鯉沼苜吾先生が創設された名古屋大学衛生学教室に入り、井上俊教授と当時助教授で後に熊本大学教授に就任された野村茂先生や先輩の山田信也先生(名古屋大学名誉教授)など素晴らしい先生方の薫陶を得るという幸運に恵まれ、物事を歴史的視点で捉えることや課題に取り組む姿勢で「現場から出て現場に返す」ことの大切さなどを学びました。

さらに、岐阜大学学長や中災防の理事兼労働衛生検査センター所長、労働省科学顧問、労働福祉事業団医監などを務められた館正知先生や、恩師野村茂先生のさらに恩師にあたり日本産業衛生学会の第4代理事長を務められた久保田重孝先生には、有機溶剤やニトログリコール中毒などの職業病に取り組み始めた大学院生の頃から大変可愛がっていただき、また、中災防の高田昂先生、櫻井治彦先生、清水英佑先生を始め、多くの先生方からも折に触れて多大なご指導ご鞭撻をいただきました。

今回の受賞理由の一つと思われる有害物質に起因する職業性アレルギー及び免疫毒性の発症とその予防対策樹立に関する仕事に関しては、本学会職業性アレルギー研究会(現アレルギー・免疫毒性研究会、1976年創立)、日本職業アレルギー学会(現日本職業・環境アレルギー学会、1993年)、国際産業保健学会アレルギー免疫毒性科学委員会(1997年)などの創設、関係の研究会・学会・国際シンポジウム等の開催・運営や関連の調査・研究、本学会の「許容濃度等の勧告」の「感作性物質」の記載などの仕事は、私が所属した研究室の諸君を始め、内外の共同研究者は勿論、行政や産業現場の方々など多くの方々との真摯なご支援・ご協力の賜物と深く感謝しております。

若い諸君への期待

近年の技術革新や社会経済的状況の急激な変貌に伴い労働力人口や労働形態も多様化する中で、産業保健領域において取り組むべき課題は山積しています。

分子生物学や遺伝子工学などの新しい科学技術の進歩もめざましく、若い諸君には、これらを活用した調査研究活動が一層活発に展開されることを期待しています。その際、素晴らしい出会いを大切に、産業労働に関わる疾病予防と健康増進対策の促進という基本的視座を忘れずに、「現場から出て現場へ返す」ことを常に念頭において積極的に取り組むことを期待しています。

終わりに、今回の受賞に関して、この場をお借りして関係各位に心から感謝申し上げます。

日本産業衛生学会GP奨励賞を受賞して

渡辺 裕晃

(大牟田市 企画総務部 職員厚生課 安全衛生担当)



昨年東京で開催された第84回日本産業衛生学会で、良好実践事例(GPS: Good Practice Samples)のGP奨励賞を受賞しました。大変栄誉ある賞をいただき、関係者一同感激しております。

私ども自治体である大牟田市の職場には、事務系をはじめ、清掃、教育、学校給食、保健、福祉、医療、消防、上下水道など様々な職場があるため、部署ごとに10の安全衛生委員会を設置し、毎年策定する安全衛生計画に沿って職員の安全衛生活動を行っており、最近では、労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)を導入し、参加型安全衛生活動を推進しています。

2007年から開始したOSHMS導入作業は、10の安全衛生委員会関係者を対象に合同で実施した基礎研修(第1ステップ)に始まり、職場での自主的な安全衛生活動の定着を目指した10の安全衛生委員会ごとのリスクアセスメント研修(第2ステップ)、部署ごとの課題を把握し、その課題を改善するための目標を設定し、リスクアセスメントを継続しながら部署ごとに実施する安全衛生活動(第3ステップ)という流れで進めました。

特に、自主的で継続的な安全衛生活動の定着を目指すため、それぞれの職場のリスクに対応できる安全衛生対策ツールを、当事者が参加し、リスクアセスメントの考え方を取り入れながら、当事者自身の手で作成することを目標とし、当面は従来からある安全作業マニュアルなどの安全衛生対策ツールのブラッシュアップから着手しました。また、職場のストレス要因もリスクアセスメントの対象とすることとしました。

このような取り組みの中で、「し尿収集作業での安全衛生教育用ビデオ教材の活用～OSHMS 導入作業を通じた参加型安全衛生活動の推進～」が、GP 奨励賞を受賞しました。

清掃（し尿収集）職場では、過去の職場巡視時に撮影していたビデオ映像を使って、ビデオ映像によるリスクアセスメントを試みました。ビデオ映像を見て、実際に職場巡視をしたつもりになって、グループ討議で「良い点」や「改善が必要な事項」をリストアップし、改善策について検討しました。また、その結果をもとにビデオ映像を編集し、安全衛生教育用のビデオ教材を作成しました。清掃（し尿収集）職場では、収集現場が無数にあり、しかも、通常作業と並行して関係者全員で現場に出向くことは不可能なので、過去の職場巡視時に撮影していたビデオ映像を使ってリスクアセスメントすることになりました。現場で実施する職場巡視と比較すると、情報量が限られ、編集作業にも手間がかかりますが、リスクアセスメントが効率的に実施できました。

今回の GP 奨励賞の受賞にあたり、様々な形でご指導いただいた先生方や、関係者のみなさまに、この紙面をお借りし心より謝意を表します。

大牟田市の安全衛生関係者一同、これを契機にさらに OSHMS やリスクアセスメントの取り組みを前進させたいと思います。

九州地方会ならびに会員のみなさまの益々のご発展を祈念いたします。

今後ともご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

「外資系企業の現場より一言」

栗田 衆一郎

(バクスター株式会社 生産本部/宮崎工場
環境安全衛生管理部 グループマネージャー)



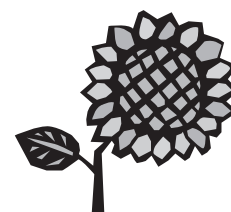
私事で恐縮ですが、2012年1月より長年勤務した中央労働災害防止協会を離職して、現在のバクスター(株)宮崎工場の環境安全衛生(EHS)グループマネージャーとして勤務しています。中災防時代には各企業のEHS担当の方に助言や指導をする立場でしたが、現在は実際の現場でのEHSの実践という立場になり、実際の現場で適用する難しさも感じています。

さて、現在勤務しているバクスター(株)はご存じの方も多いかと思いますが、米国に本社がある外資系の製薬会社です。中災防時代に色々な化学系の会社に訪問して安全衛生に関する指導等をしてきた経験からすると、日系企業と外

資系の企業ではEHSに対するスタンスが大きく違うと感じています。私どもの会社ではEHSに関連する規定が米国本社で制定されており、全ての工場がその規定に従うことを義務付けています。このEHSの規定は25章で約100頁に及びます。また、規定の詳細については別途のガイドがあり、これも同様に100頁に及びます。内容的には専門性が高く、欧米のIH（インダストリアルハイジニスト）やOH（オキュペーションナルハイジニスト）が持っている知識がないと理解が難しいところが多くあります。従ってEHS関連の活動については、各職場単位の活動ではなくEHS分門で働く専門性の高い人材が要求事項に従って、製造現場等のマネージャーと協力して進めていくのが基本的なスタイルになります。もちろん細かな6S活動のような安全活動は現場を中心に実施しています。また、社内監査としてUS本社のEHS専門家が年1回工場を訪問してEHSの要求事項が実施されているかのチェックを実施しており、未実施の項目や基準に満たない項目は改善対象となります。これらのEHS活動に関して内容の説明や改善前の意見聴取は全て作業者を含んで行いますので、作業者が不在で進むことはありません。

従ってEHSスタッフの責任の範囲はかなり大きく重要性も高いと言えます。その代わりに日本型の安全活動である、KY活動やゼロ災活動などは実施したことが無く、職場小集団でのEHS活動は6S以外何も実施した経験がない形になっています。

現在日本でも欧米でも安全衛生活動でのリスクアセスメントの重要性が挙げられていますが、このリスクアセスメントの実施も、私どもではEHSスタッフがUS本社のEHS専門家によって作成されたチェックリストに従って実施し、評価を行うスタイルとなっています。日本では職場の作業者を中心にリスクアセスメントを実施することが、厚生労働省の事例集等に書かれていますので、大きな違いがあると言えます。どちらのやり方にも一長一短があるのですが、文化の違いからくるEHSへの考え方の違いが大きく作用しているのは間違いないかと思えます。現在、US本社ではニアミス報告というものを進めており、これは日本のヒヤリ・ハット報告と同種のものなので、出発点は違っても最終的には現場での安全衛生活動が必要になることは間違いないようです。今後は日本の活動の良いところ取り入れ宮崎工場で実践して、その活動内容をUS本社に紹介することで日本型の安全衛生活動をガイドに取り入れてもらうべく実践していきたいと考えています。



部会報告

産業医部会活動報告

九州地方会産業医部会長 田中雅人
(トヨタ自動車九州株式会社)

九州地方会における産業医部会の活動が開始してから9年が経過しました。平成24年度から大分、長崎、宮崎の役員(幹事)が決まり、九州全県から役員が選任される体制になっています。平成24年4月に「労働安全衛生法の一部を改正する法律案」の「メンタルヘルス対策の充実・強化」に関する産業医部会の見解が作られる過程において、九州地方会の部会員の意見集約が求められましたが、この体制のもとで行うことができました。

全国幹事会の方針として、各地方会で研修活動を拡大していくことになっており、それを受けて新たな研修会を企画・実施しました。具体的には、平成23年11月の九州医師会医学会及び産業医・産業看護全国協議会に合わせて、四部会合同職場改善セミナー CD-ROM 教材を使用した産業医実務研修会を開催しました。それぞれ97名、77名の参加がありました。

なお第21回産業医・産業看護全国協議会は、平成23年11月に福岡市で開催されましたが、九州地方会産業医部会のメンバーも、数多く準備・運営に関わりました。

従来から継続している「健康管理研究会」は、平成23年度は26回目を迎え、福岡産業保健推進センター、産業医学推進研究会九州地方会、九州地方会産業看護部会との共催で、平成24年2月25日に福岡市で開催し、「健康保持・ストレス対処能力 SOC (Sense of Coherence) と産業保健活動」をテーマとした研修を行いました。講師に蝦名玲子先生(グローバルヘルスコミュニケーションズ社長、東京大学大学院医学系研究科 客員研究員)を迎え、「SOCを高めるコミュニケーション」と題して、SOCの基本的な概念や最新の研究成果の説明から入り、SOCの自己診断を経て、職域での活用について、演習を中心にトレーニングしていただきました。57名の参加者の中には、SOCを初めて耳にする方も多かったと思いますが、知識での理解、自身での気づき、グループワークでの実践と、SOC



第26回健康管理研究会終了後、講師の蝦名先生を囲んで

を多面的に理解できる機会になったと思います。

今年度は平成25年1月に福岡市で開催予定ですが、平成22年度と同じく、産業看護部会による産業看護研究会と同日開催で、相互参加を促すことになっています。

なお日本労務学会と日本産業衛生学会で、学会間での交流が行われており、全国幹事会より、地方会レベルでも交流を推奨されています。これに関しては、日本労務学会九州部会と連絡を取りながら進めていく必要があると思っています。

産業看護部会活動報告

産業看護部会副部会長 住徳松子
(アサヒビール(株) 博多工場)

平成24年度の産業看護部会の一大イベントである九州地方会学会は、成功裏に終了いたしました。詳細は柴戸美奈学会長の報告に譲りますが、産業看護部会として11年ぶりに地方会学会を担当し、この機に新しく仲間入りしたスタッフもあり、役員一同貴重な経験となりました。今年度の産業看護部会のそのほかの活動としては、来年1月に産業看護研究会を予定しております。詳細が決定いたしましたら会員の皆様にご案内いたしますので、しばらくお待ち願います。

さて、毎年開催しております産業看護継続教育システム実力アップコースですが、地方会学会の諸準備等があったため、今年度は休止させていただきます。実力アップコースは、学会登録産業看護師を取得された会員の皆さまの更なる研鑽と、登録産業看護師の更新に必要な単位取得を促進する目的で開催しております。しかし、運用開始から17年目を迎えた産業看護継続教育制度ですが、制度そのものが見直されることとなり、昨年の総会で報告されたことはご承知のとおりです。

すでに昨年から新産業看護教育システムについて、産業看護部会でワーキンググループを組織し検討を重ねてきましたが、今年6月の本部理事会で制度変更が承認され、新たに産業医部会および産業歯科保健部会の理事を加えたワーキンググループを組織し、検討されることとなりました。今までの産業看護継続教育システムは産業看護部会の制度という位置づけでしたが、新産業看護教育制度は学会として制度構築および運営をされることとなります。経緯については、5月の総会でも報告されましたが、産業看護フォーラム第41号に詳細が掲載されておりますのでご参照下さい。

産業看護継続教育システムが学会マターで新たに構築されるということは、産業看護職の役割の変化や社会からの期待に応えられる能力向上の必要性など、産業看護職の責務が重大になっていることの証ではないかと考えます。

新制度構築まではまだしばらく時間を要しますので、九州地方会産業看護部会としては、九州の会員の皆さまにタ

イムリーな情報提供を行い、制度運用が開始されましたらスムーズな制度移行をお手伝いできるような準備を進めて参りたいと存じます。皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

産業衛生技術部会活動報告

産業衛生技術部会幹事 伊藤 昭好
(産業医科大学 産業保健学部 環境マネジメント学科)

産業衛生技術部会の全国レベルの活動としては、本年5月末に名古屋で開催された第85回産業衛生学会において産業衛生技術フォーラム(テーマ:産業衛生技術者の役割と期待)を開催しました。化学物質管理には、欧米のハイジニストに相当するような人材が不可欠であることが明確となり、筆者の所属する学科の人材育成任務の重要性を痛感しました。さらに来たる11月には、東京工科大学において開催される産業医・産業看護全国協議会の会期中同じ会場で第21回産業衛生技術部会大会開催を予定しております。この他、産業衛生技術専門研修会を年2回開催しております。

各地方会単位でも、独自に研修会等の企画運営をすすめています。九州では、九州大学医学部百年講堂で開催された平成24年度日本産業衛生学会九州地方会学会に合わせて7月13日に自由集会を開催しました(写真参照)。今回は、産業医科大学産業生態科学研究所の明星敏彦先生に、「ナノ材料のリスクアセスメントの現状」という題目で講演していただきました。当日は悪天候の上、会場の設定時間にも制限があったため、明星先生にはご迷惑をおかけしてしまいましたが、短時間でも有意義な時間を過ごすことができました。

また、12月8日(土)に福岡で開催される第46回中小企業安全衛生研究会全国集会を共催することになっております。シンポジウムでは、中小企業の産業保健を支援する良好事例を、各職種から報告いただくことになっており、シンポジストの一人には地元若手の作業環境測定士も予定されています。興味深い討議内容になることと思われしますので、奮ってご参加いただきますようお願いいたします。



産業歯科保健部会報告

産業歯科保健部会幹事 山本 良子
(財)日本予防医学協会九州センター)

若夏の砌、第85回日本産業衛生学会総会が名古屋で開催されました。昨年夏に施行された「歯科口腔保健の推進に関する法律」について厚生労働省から意見書の提出を求められ、産業歯科保健部会として職域における歯科に関する課題や対策などを提言したことが部会総会で報告されました。法的基盤の弱さを指摘される産業歯科分野では期待を寄せるところではありますが、まずは産業保健の中で重要な役割が担えるよう環境整備や研修など、尚一層の努力をして参りたいと考えています。

産業歯科保健フォーラムでは『生活習慣病リスク予防と口腔保健の役割』をテーマに、森田一三先生(愛知学院大学)には共通リスクについて、久田和明先生(刈谷市歯科医師会)にはメタボと口腔の関連、石井英子先生(椋山女学院大学)には保健指導の観点から、坪井信二先生(愛知県健康福祉部)には糖尿病の合併症管理と連携ネットワークについてご講演いただきました。産業保健の枠組の中で口腔について考えることができ多職種の多くの方に参加いただきました。

部会前期研修会として、『歯科医療従事者の労働衛生』をテーマに、歯科医療業務の3管理について井川資英先生(東北大学)、歯科衛生士の作業関連筋骨格系障害については小原由紀先生(東京医科歯科大学)、歯科医院の医療安全とリスクアセスメントについては金山敏治先生(金山歯科医院)にご講演いただき、歯科医療従事者において必要な安全配慮について改めて考えさせられる研修会となりました。今後部会の努めとして情報を整理し発信して参りたいと考えています。

部会企画ではありませんが、VDT作業研究会の自由集会では、『Tooth Contacting Habit 歯牙接触癖について』木野孔司先生(東京医科歯科)によるご講演で歯科の話題が提供されました。VDT作業中などに上下の歯を接触させることで筋骨格系の障害がおこることが判り注目されています。通常は安静空隙という上下の歯列間には2mm程の隙間があるのですが、下向き作業やその他要因により知らず知らずのうちに上下の歯を接触させたり食いしばったりすることにより筋肉や関節に負荷がかかります。認知行動療法による治療についても紹介がありました。

豪雨の中開催された九州地方会では、ランチョンセミナーにおいて『歯科保健の新たな取り組み』として歯周病バイオマーカーについて4名のリレー講演を行いました。展示ブースではこの検査を体験いただきました。歯科保健が産業保健の枠組みの中で保健事業と一体感を持って気軽に取組める一助になれば幸甚です。

今回、地方会ならではの温かみのある学会で、参加者として身近に感じる事の出来るセミナーを実施させていただきました。企画運営にご尽力された産業看護部会の皆さまに感謝申し上げます。

研究紹介・学会報告

平成24年度日本産業衛生学会 九州地方会学会を開催して

学会長 柴戸美奈
(財団法人 福岡県すこやか健康事業団)



平成24年度日本産業衛生学会九州地方会学会を平成24年7月13日～14日の日程で九州大学病院百年講堂にて開催いたしました。おりしも福岡県全域が「平成24年7月九州北部豪雨」と命名されるほどの豪雨の中、果たして開催できるのかと危惧いたしましたが、おかげさまで滞りなく開催することができました。

心配いたしました参加者数は141名と例年に比べると少なめではありますが、九州各県よりご参加を頂きました。

産業看護部会長が学会長を務めましたのは11年ぶりとなりますが、その間、産業保健専門職の活動の場である職場環境は大きく変化しました。今学会開催にあたり、産業保健の対象である労働者が地域住民でもあるということを再認識し、地域・職域の枠を超えた視点を持って業務を展開する必要性と、学問的にも他分野との連携の重要性を考える機会にしたいと考えました。そこでテーマは「地域の活力につながる産業保健活動」と致しました。

特別講演では、異業種間を繋ぎ連携させることで街づくり活動を先導している福岡大学商学部村上剛人教授をお迎えして、「街づくりの視点から見た医商連携」についてご講演を頂きました。来るべき高齢化社会の現状を改めて認識し、自分たちはどのように迎えばいいのか、職域で準備をしておくことはないのかと考える機会を得ることができました。また「シビックプライド」の思想は、職場の活性化などに応用できるビジョンであり、産業保健活動には直接関係がないと思われたであろう参加者の方に対しても、異なる視点で組織集団を捉える発想の転換のヒントになったのではと考えます。初日は石蔵酒造「博多百年蔵」において懇親会を開催し、楽しく歓談するうちにビールより日本酒が空になるという不思議な現象がおきました。

2日目は更なる豪雨の中でしたが定刻に開始し、産業歯科保健部会のご尽力により「歯科保健における新しい取り組みー歯周病バイオマーカー」をテーマに、ランチョンセミナーを開催いたしました。実際の歯周病の科学的評価方法をご紹介できるよう、機器展示ブースには体験コーナーも設けました。教育講演ではメンタルヘルスやメタボリックシンドローム対策においても障壁となるアルコール関連問題について「アルコール問題対策の最近の動向」を医療法人優なぎ会雁の巣病院の熊谷雅之先生に講演いただきま

した。一般演題は様々な分野から24題の発表があり活発に討議がなされ、盛会裏に終了することができました。主催者としては、産業看護職らしい企画でテーマに沿った学会になったのではと自負いたしております。

今学会の開催にあたり、川本地方会長をはじめ地方会事務局の皆様、荒天の中ご参加いただきました会員の皆様、また協賛いただきました企業の皆様には、ご厚誼ご支援を賜り誠にありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。最後になりましたが、事前準備および当日運営に尽力いただきました産業看護部会の皆様には、心より感謝申し上げます。

理事会報告

平成24年度 第1回九州地方会理事会報告

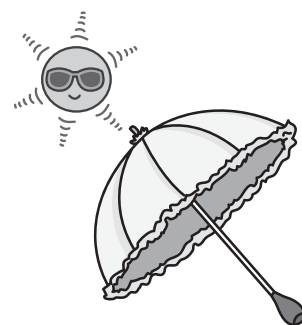
平成24年度第1回理事会が、平成24年7月13日(金) 13:00～14:15に九州大学医学部 百年講堂 2階会議室3にて開催されました。

主な議題は以下の通りです。

- 1) 平成23年度第2回理事会議事録要旨について
- 2) 平成23年度事業報告および決算報告について
- 3) 平成24年度事業計画・予算・共催について
- 4) 平成25年度地方会総会開催について
- 5) 平成26年度地方会総会開催地について
- 6) 九州地方会選挙管理委員会について
- 7) 名誉会員、功労賞の候補者について
- 8) その他

なお、平成25年度日本産業衛生学会九州地方会学会は、宮崎市にて平成25年7月5日(金)～6日(土)に、宮崎市オルブライトホールにて開催されることが報告されました。

また、平成24年12月8日に「日本産業衛生学会 第46回中小企業安全衛生研究会全国集会」が福岡県医師会館(福岡市)にて開催されることが報告され、九州地方会の共催とすることが理事会にて承認されました。



学会案内

平成25年度日本産業衛生学会 九州地方会のお知らせ(第一報)

黒田 嘉紀

(宮崎大学 医学部 社会医学講座 公衆衛生学分野)

平成25年度日本産業衛生学会九州地方会を宮崎県で開催させて頂くこととなりました。大変名誉なことと感謝しております。宮崎県で行うのは9年ぶりで、前回は現熊本大学教授加藤貴彦先生が学会長として開催しております。その時は幹事として私も開催のお手伝いをさせて頂きました。思い起こせば8年前に宮崎県で行われた平成16年度日本産業衛生学会九州地方会は旧医師会館で行われ、大雨に見舞われ、交通が乱れ、多くの会員の方に大変なご不便をおかけいたしました。この場をお借りしてお詫び申し上げます。天候ばかりはどうにもなりません、そのことが今でも悔やまれます。今回は教室員一同、学会運営に支障のないよう準備いたしますが、当日好天に恵まれますよう、今から天にお願いもしておきたいと思っております。

この間宮崎県は多くの災害に見舞われてしまいました。台風による洪水、鳥インフルエンザ、口蹄疫、挙げ句の果てが新燃岳の噴火と立て続けに大きな災害が宮崎県を襲いました。そのたびに県外からの暖かなご支援を頂き、何とか復興することができました。改めてお礼申し上げます。

今回は平成25年7月5日(金)・6日(土)、宮崎市民プラザ(オルブライトホール)で開催予定です。皆様もご存じのように、陸の孤島である宮崎での開催のため、発表者および参加者の動向が最も気に病むところです。交通の便は決してよくありませんが、多くのご発表、ご参加お待ちしております。

最後になりましたが今後ともご指導ご鞭撻いただきますようよろしくお願い申し上げます。

開催日：平成25年7月5日(金)・6日(土)

会場：宮崎市民プラザ(オルブライトホール)

〒880-0001

宮崎市橘通西1丁目1番2号

TEL.0985-24-1008

事務局：889-1692

宮崎県宮崎市清武町木原5200

宮崎大学医学部社会医学講座公衆衛生学分野

TEL：0985-85-0874

第46回日本産業衛生学会中小企業 安全衛生研究会全国大会開催のご案内

茅嶋 康太郎

(産業医科大学 産業医実務研修センター)

この度、表記研究会の担当世話人をさせて頂くことになりました。この研究会は日本産業衛生学会の自由集会で、世話人が毎年持ち回りで担当し、全国各地で大会を開催しております。福岡では7年ぶりの開催になります。日本では約8割以上の方が中小企業で働いており、約6割以上の方が従業員数50人未満の小規模の事業所で働いています。日本における産業保健の在り方を考える際には、中小企業をフィールドとして、どのようにアプローチを行えば企業や労働者のニーズに合った、皆が幸せになれるサービスが提供できるかを検討することが非常に大事であると思っています。今回の教育講演では、産業医科大学が福島原発の支援に携わった経験を踏まえ、産業医実務研修センターの森センター長に、建設業などの下請け企業の健康管理について話をさせていただきます。このフィールドについてはこれまで我々産業保健スタッフがほとんど関わったことのないような分野ではないかと思っております。実地の経験を踏まえ、小規模事業所への産業保健アプローチの在り方について考える機会になればと期待しております。またシンポジウムでは、健康診断等を通して中小企業に最も近い関係にいると思われる労働衛生機関(医師、産業保健師、作業環境測定士)、公的機関としての地産保、また対象となる労働者人口としてはかなりの部分を占めていますがまだまだ産業保健の対応が十分ではないと思われる公務員の世界、そして特に小規模・零細事業所のもっとも身近にいて事業者の相談相手になってくれるリソースとして最近注目されている社会保険労務士、それぞれの立場でどのように中小企業を支えていくかについて、ご参加いただける会場の皆様と一緒に考えていきたいと思っております。

参加費は無料です。当日ふらっとおいでになっていただいても結構ですが、研究会の後に懇親会も予定しております。せっかくの機会ですので、できるだけ多くの皆様のご参加をお待ちしております(準備万端整えて)。懇親会参加いただける方は是非事前にメール連絡をよろしくお願い致します。

1. 日程：平成24年12月8日(土) 10:00~17:00

懇親会18:00~都ホテルにて

2. 会場：福岡県医師会館

3. 内容：

10:00-12:00 一般演題

13:30-15:00 教育講演

「多重下請け構造の中の産業保健アプローチ
～福島第一原発を事例に」

森 晃爾(産業医科大学 産業生態科学研究所
産業保健経営学 教授)

15:00-17:00 シンポジウム

「多職種で中小企業をどう支えていくか」



《シンポジスト》

労働衛生機関の立場から

黒木 弘明 (財団法人 西日本産業衛生会)

看護職の立場から

高波 利恵 (産業医科大学 産業保健学部)

作業環境測定士の立場から

市後崎隆則 (財団法人 西日本産業衛生会)

市町村の立場から

渡辺 裕晃 (大牟田市 職員厚生課)

地産保の立場から

柿森 里美 (福岡県地域産業保健センター)

社会保険労務士の立場から

久野 亜希子 (ひさの社会保険労務士事務所)

4. 参加申し込み:

無料ですが、懇親会の準備のためご連絡ください (会費 6000円)。

メールアドレス: 46chu@mbox.med.uoeh-u.ac.jp

ホームページ: http://ohtc.med.uoeh-u.ac.jp/46chu/index.html

九州地方会代議員候補者の推薦について(お願い)

九州地方会選挙管理委員会 委員長 市場 正良 (佐賀大学 医学部)

本年度は、2年ごとに実施している選挙の年になっています。

標記について、以下の要領で推薦を受け付けます。

九州地方会正会員から、代議員候補者を10名以内の範囲でご推薦ください。

自薦も可能です。

候補者氏名、推薦者氏名、日付を明記した用紙を各自で作成(書式は問いません)の上、下記事務局まで、①郵送、②FAX、③電子メール、④直接持参のいずれかの方法でご提出ください。締め切りは9月11日(火)(必着)とさせていただきます。

事務局の確認後3日以内に受け取りの連絡を差し上げますので、連絡先(FAXまたは電子メールアドレス)も明記してください。

なお、地方会長、地方会理事の推薦を行うものではありませんので、ご注意ください。

今後は、代議員候補の確定後、以下の予定で、代議員、九州地方会長、九州地方会理事の選出を進めます。

9月11日 代議員候補の確定

9月20日頃 投票用紙類発送

10月5日(必着)投票締め切り

10月22日 各新役員の確定、本部に報告

事務局: 〒807-8555 北九州市八幡西区医生ケ丘1-1

産業医科大学 産業生態科学研究所精神保健学研究室内

日本産業衛生学会九州地方会 選挙管理委員会事務局

FAX 093-692-5419 TEL 093-691-7475

E-mail: j-seihkn@mbox.med.uoeh-u.ac.jp



科学的な話題で今年個人的に気になるのは、ヒッグス粒子の発見である。素粒子に質量を与える粒子で、身の回りの至る所に存在しているようだが、見ることも、触れることもできない。仮にこの粒子が無ければ、素粒子は質量を持たず、我々も存在しないと言われている。

宇宙はどのように生まれて、どうなるのであろうか。壮大な物語は私には想像もつかないが、興味本位に色々は書物を読んでみると、宇宙の成り立ちには諸説あるが、極めて低い確率で起こる偶然によってこの宇宙はできたようだ。さらにこの宇宙以外にも他の宇宙が存在してもおかしくないとも言われている。しかし他の宇宙と行き来することは不可能なので証明はできない。とても残念だ。怖い物見たさかもしれないが、他の宇宙も見てみたいような気がする。

こんな壮大は宇宙の物語を考えながら、高校生の時に父にねだって購入してもらった望遠鏡で月、惑星、星雲等を見ていると、宇宙の大きさに圧倒される。この壮大な宇宙からすると、実生活はちっぽけで、味気ない。しかしこの世界で精一杯生きる以外に我々には道はない。この世界が永遠に続くことはないようだが、いつまでも続くことを祈って、人生を生き、子を育てる。宇宙の大海原を旅したいと思うこともあるが、この小さな地球であくせく働いている今の人生にそれほど不満もない。人生こんな物かなと感じるくらい年をとったのだろうか。これは良い事なのか悪いことなのか私には分からないが、許される限り生きたいと思うのは皆同じであろう。こんな事を蒸し暑い夏の夜に空を見上げてふと思ってしまった。(黒田)

九州地方会ニュース「産衛九州」

発行 平成24年9月1日

編集正責任者: 加藤 貴彦 (熊本大学)

編集副責任者: 市場 正良 (佐賀大学)

編集委員: 青木 一雄 (琉球大学)

青柳 潔 (長崎大学)

堀内 正久 (鹿児島大学)

石竹 達也 (久留米大学)

黒田 嘉紀 (宮崎大学)

佐土原浩子 (九州電力 大分支店)

住徳 松子 (アサヒビール(株)博多工場)

大和 浩 (産業医科大学)

(五十音順)

(編集事務局連絡先)

〒860-8556 熊本市中央区本荘1-1-1

熊本大学大学院生命科学研究部

公衆衛生・医療科学分野 (担当: 西村)

TEL (096) 373-5112 FAX (096) 373-5113

E-mail: k-public@kumamoto-u.ac.jp